

# 第 55 回 日本消化器内視鏡学会東海支部例会

日時：平成 24 年 12 月 1 日（土）午前 8 時 55 分より

会場：長良川国際会議場  
〒502-0817 岐阜市長良福光 2695-2  
TEL：058-296-1200

会長：加藤 隆弘  
朝日大学歯学部附属村上記念病院 消化器内科

# 第 55 回 日本消化器内視鏡学会東海支部例会 プログラム

日 時：平成24年12月1日（土）午前8時55分より

会 場：長良川国際会議場

〒502-0817 岐阜市長良福光2695-2

TEL：058-296-1200

参加受付	4階	ロビー
クローク	3階	第1会議室
PC受付	4階	ロビー
第1会場	4階	大会議室A・B
第2会場	4階	大会議室C
第3会場	5階	国際会議室
第4会場	2階	第5会議室
企業展示	4階	ロビー

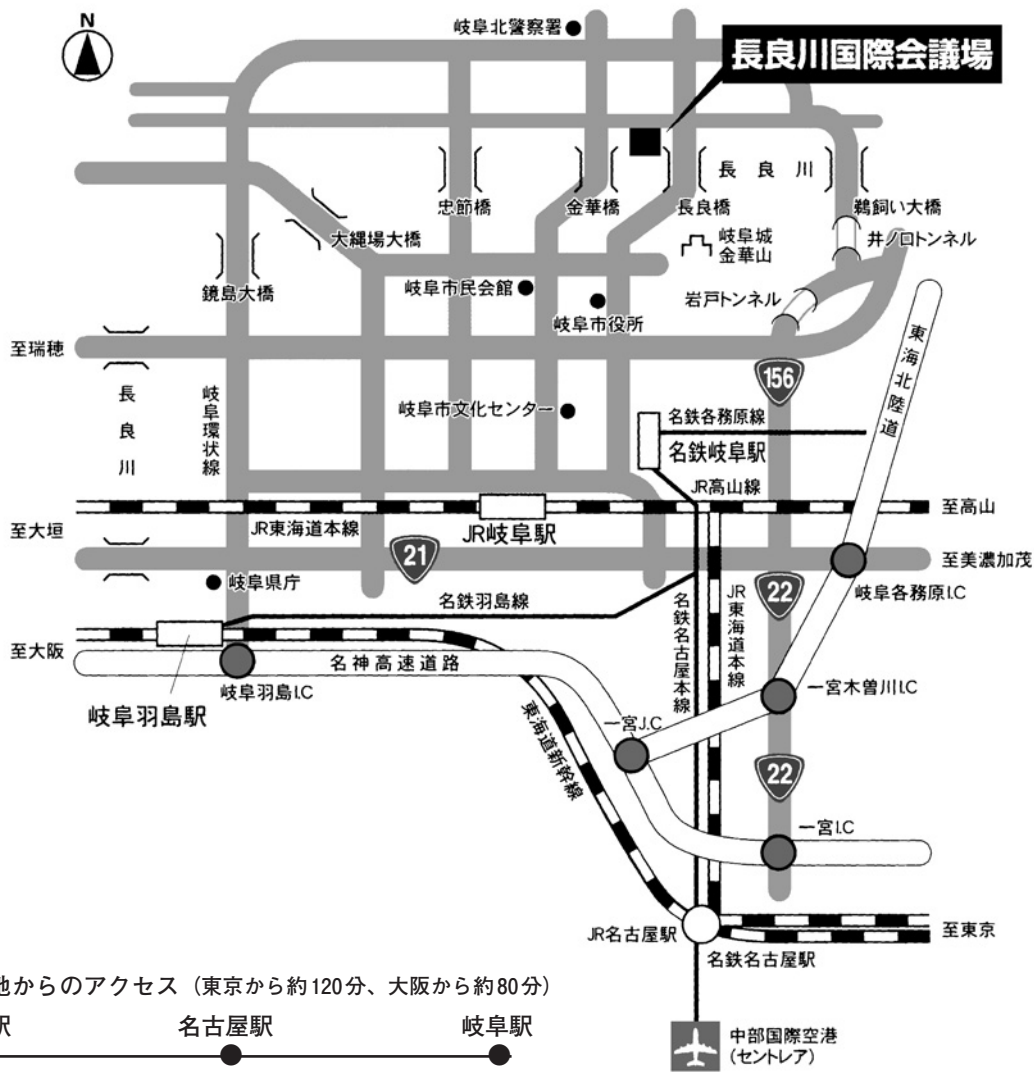
会 長：加藤 隆弘

朝日大学歯学部附属村上記念病院 消化器内科

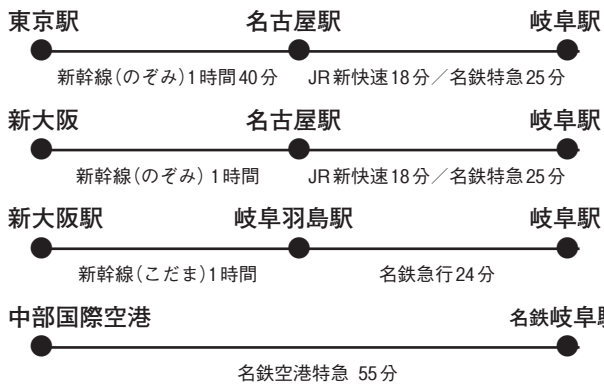
# 【目次】

会場への交通のご案内	4
会場のご案内	5
タイムスケジュール	6
ご案内・お願い	7
プログラム	9
抄録	47
協賛企業一覧・企業展示一覧・広告	79

# 【会場への交通のご案内】



## ■各地からのアクセス (東京から約120分、大阪から約80分)



## ■JR岐阜駅・名鉄岐阜駅からのアクセス

### ●岐阜バス

「市内ループ線左回り」(JR岐阜駅前⑩乗場/名鉄岐阜駅前④乗場)で「長良川国際会議場北口」下車(徒歩3分)

「三田洞線」K50・K51・K55(JR岐阜駅前⑩乗場/名鉄岐阜駅前⑤乗場)で「長良川国際会議場前」下車(徒歩1分)

\*バスの場合はいずれも所要時間 約20分

\*タクシー利用の場合は所要時間 約10分～15分

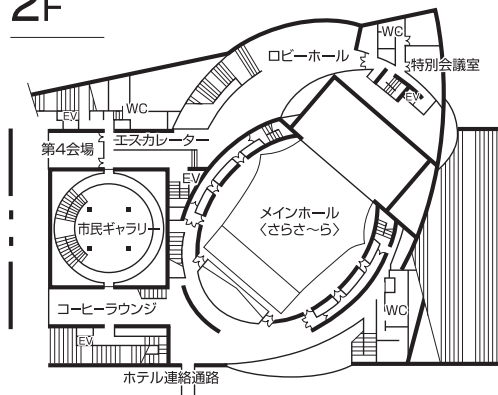


〒502-0817 岐阜市長良福光2695-2  
Tel: 058-296-1200 Fax: 058-296-1210  
URL <http://www.g-ncc.jp>

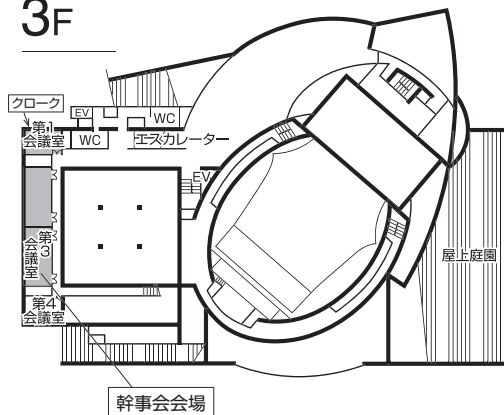
# 【会場のご案内】

## 長良川国際会議場

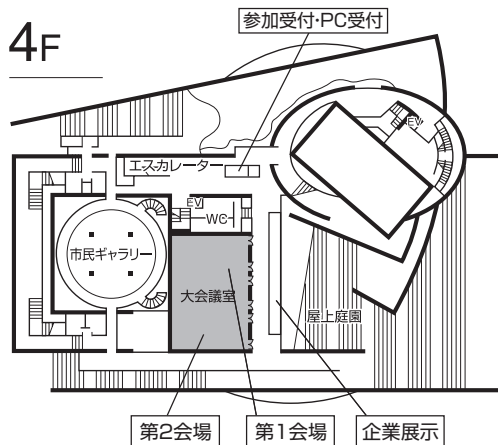
2F



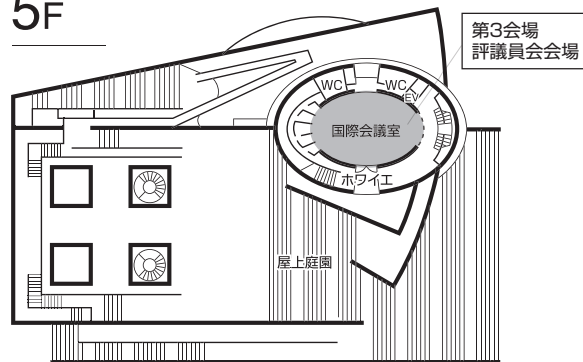
3F



4F



5F



# 第55回日本消化器内視鏡学会東海支部例会 プログラム

時間	第1会場 4F 大会議室 A/B	第2会場 4F 大会議室 C	第3会場 5F 国際会議室	第4会場 2F 第5会議室	展示会場 4F ロビー	会議室 3F 第3会議室
8:30	受付	受付	受付	受付	受付	
	開会の辞	若手研究者優秀演題奨励賞選定セッション				
9:00	9:00~11:30 シンポジウム②  胆膵疾患関連手技 の Up to Date 司会 伊藤彰浩・ 大洞昭博	9:00~9:36 上部消化管① 加藤則廣	9:00~9:45 下部消化管① 大宮直木	9:00~9:36 胆・膵 安田一郎	企業展示 ドリンク	
9:30		9:36~10:12 上部消化管② 小笠原尚高	9:45~10:21 下部消化管② 杉本 健			
10:00		10:12~10:48 大腸① 1~4 森本泰隆	10:21~10:57 小腸 5~8 片岡洋望	10:12~10:48 食道・胃① 9~12 宮脇喜一郎		
10:30						
11:00						
11:30						
12:00	ランチョンセミナー①	ランチョンセミナー②	評議員会			幹事会 10:30~11:30
12:30	12:00~12:50	12:00~12:50	12:00~12:50			
13:00			表彰式 12:50~13:05 総会 13:05~13:15			
13:30	13:20~14:20 特別講演 内視鏡処置における抗血 栓療法ガイドライン 藤本一眞					
14:00	14:20~14:30 休憩 移動					
14:30	14:30~17:00 シンポジウム①	14:30~15:06 大腸② 13~16 堀木紀行	14:30~14:57 胆①・膵 21~23 向井 強	14:30~15:15 胃② 31~35 宮原良二		
15:00	ESDの手技と工夫 司会 小野裕之・ 荒木寛司	15:06~15:42 大腸③ 17~20 長坂光夫	14:57~15:24 胆② 24~26 三好広尚	15:15~15:51 十二指腸 36~38 久永康宏		
15:30			15:24~16:00 EUS-FNA 27~30 原 和生			
16:00						
16:30	17:00				16:30まで	
17:00	閉会の辞					

## 【ご案内・お願い】

### ○会場整理費

- ・本学会では、会場整理費として一人2,000円を参加受付にてお支払いいただきます。
- ・受付時に、ネームカード（兼領収証）、プログラム集をお渡し致します。

### ○演題発表

- ・パソコンによる発表となります。
- ・発表時間 一般演題……………口演6分・討論3分・スライド10枚以内  
若手研究者優秀演題 ……口演6分・討論3分・スライド10枚以内  
奨励賞選定セッション  
シンポジウム 1……………口演8分、壇上での総合討論あり。  
シンポジウム 2……………口演7分、壇上での総合討論あり。  
当日は司会者の指示に従って下さい。
- ・発表時間30分前までにPC受付にて受付をしてください。
- ・USBフラッシュメモリー、CD-R以外のメディアでは受付できません。  
※ファイル名は「(演題番号) (氏名)」とし、動画等のリンクデータを含むフォルダーも、ファイル名と同じフォルダー名としてください。
- ・演台上のキーボード、マウスにて先生ご自身でスライドを進めてください。
- ・受付したデータは使用后、事務局にて責任を持って消去いたします。

### ○データ作成上の留意点

- ・会場PCのOSはWindows7、ソフトはPower Point 2000、2003、2007、2010です。
- ・フォントはMSゴシック、MS明朝等、一般的なものをご使用ください。
- ・Macintoshにて作成の場合、事前にWindows上での動作確認と、Windows用にデータ変換を行った上でのご用意をお願いします。
- ・動画はWindows Media Playerで再生可能であるものに限定します。
- ・他のデータ（静止画・動画・グラフ等）をリンクさせている場合は必ず元のデータも保存して頂き、事前に動作確認をお願いします。
- ・動作確認は作成に使用したPC以外のWindowsで行って下さい。
- ・データを保存する前に必ずウイルスのチェックを行って下さい。
- ・液晶プロジェクターの出力解像度はVGA (640×480)、SVGA (800×600)、XGA (1024×768)に対応しております。
- ・音声出力は使用できません。  
(Windows7又はMacintoshにて作成されたデータの場合は、PC本体を持参下さい。)

### ○座長の先生へ

- ・座長の先生は座長受付（参加受付併設）にてご出席確認をお済ませいただき各担当セッションの開始15分前までに会場内の次座長席におつき下さい。

○評議員会

日時：平成24年12月1日（土）12:00～12:50

会場：第3会場（国際会議室）

※昼食をご用意しておりますが、各自弁当代をご負担いただきます。

○表彰式

日時：平成24年12月1日（土）12:50～13:05

会場：第3会場（国際会議室）

○総会

日時：平成24年12月1日（土）13:05～13:15

会場：第3会場（国際会議室）

○企業展示、ドリンクサービス

4Fロビー 9:00～16:30

○クローク

3F第1会議室 8:00～17:00

## 若手研究者優秀演題奨励賞について

医学部卒後5年以内の研修医（旧初期研修医）および専門医（旧後期研修医）を対象に若手医師が発表した演題の中から優秀演題に対して「若手医師研究奨励賞」を選定し、支部例会会長より賞状と奨励金を贈呈いたします。そのうち上位6名を翌年春の日本消化器内視鏡学会総会へ招待いたします。

今回は、対象演題を「若手研究者優秀演題奨励賞選定セッション」にて順次ご発表いただき、審査員が発表内容などについて審査し、評議員会終了後に発表いたします。審査対象の先生方は、12時50分からの表彰式には第3会場にご参集いただきますようお願い申し上げます。



# 特別講演

『抗血栓薬服用者に対する消化器内視鏡診療ガイドライン』

講師：佐賀大学医学部 消化器内科 教授 藤本 一眞  
司会：藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院 消化器内科 教授 芳野 純治

4F 第1会場（大会議室A・B）

13：20～14：20

## 特別講演

# 抗血栓薬服用者に対する消化器内視鏡診療ガイドライン

佐賀大学 消化器内科  
藤本一眞

日本消化器内視鏡学会は、日本循環器学会、日本神経学会、日本脳卒中学会、日本血栓止血学会、日本糖尿病学会と合同で“抗血栓薬服用者に対する消化器内視鏡診療ガイドライン”を作成した。従来の日本消化器内視鏡学会のガイドラインは、血栓症発症リスクを考慮せずに、抗血栓薬の休薬による消化器内視鏡後の出血予防を重視したものであった。今回は抗血栓薬を持続することによる消化管出血だけでなく、抗血栓薬の休薬による血栓塞栓症の誘発にも配慮してガイドラインを作成した。

抗血栓薬服用者に対する消化器内視鏡に関するガイドラインは、1999年に発刊された消化器内視鏡ガイドラインに記載されている。2005年に「内視鏡治療時の抗凝固薬、抗血小板薬使用に関する指針」が作成され、それを基盤に2006年に消化器内視鏡ガイドライン第3版が出版された。抗血栓薬服用者に関しては、米国や欧州、等でガイドラインが示されており、日本のガイドライン改訂版の作成においても一部を参考にした。

ガイドラインの作成については、日本消化器内視鏡学会の理事会で作成委員、評価委員を決定後、2010年10月に最初の委員会を開催した。他学会と合同でガイドライン作成に着手して最終案に近い案を作成し、外部評価委員の意見をもとに修正した。2011年6月12日に作成委員、評価委員、担当理事でコンセンサス会議を開いて最終案を決定し、委員15名によりアンサーパッド方式を用いた Delphi 法で同意度（コンセンサス）を確認した。各コンセンサスに対する解説の最終案を記載し、評価委員がエビデンスレベルと推奨度を Minds の推奨グレードを用いて評価した。2012年7月号の日本消化器内視鏡学会雑誌に掲載した。各ステートメントに対するエビデンスレベルは高いものではなく、推奨度はC1にとどまるものが多い。今回の抗血栓薬服用者に対する消化器内視鏡診療ガイドラインを日本消化器内視鏡学会が中心になって検証していく必要がある。

更に最近、大腸上皮細胞の体外培養技術確立という先駆的かつ画期的な基礎研究成が得られた。我々は過去に誰もなし得なかった本技術確立にマウス細胞で成功し、さらにヒト内視鏡で得る微小生検検体から大腸細胞を培養する手法も確立した。我々の開発した技術は腸上皮の幹細胞を選択的に増殖させるものであり、その結果として長期培養した細胞は障害された腸管に移植可能である事も明らかとなった。本技術はヒト大腸上皮細胞の基礎研究に貢献するだけでなく、異なる個人から得る細胞による病型診断、薬剤効果予測、また傷害腸管への自己細胞移植の技術基盤として炎症性腸疾患の新しい診断・治療法へ応用できる可能性をもつと期待している。

## 〈学歴および職歴〉

生年月日 昭和28年7月3日生  
佐賀大学医学部 内科学 教授

### 学歴

昭和54年3月 九州大学医学部卒業  
昭和62年4月 医学博士（九州大学）

### 職歴

昭和54年6月 九州大学医学部附属病院研修医  
昭和60年8月 九州大学医学部第一内科講座助手  
平成1年4月 休職渡航（ルイジアナ州立大学生理学教室研究員）  
平成3年11月 佐賀医科大学医学部講師  
平成9年8月 佐賀医科大学（現 佐賀大学）医学部内科学教授  
平成16年5月 佐賀大学医学部医学科長  
平成23年4月 佐賀大学医学部附属病院副病院長

# ランチオンセミナー 1

『見逃せない、GERD に伴う睡眠障害』

講師：大阪市立大学大学院医学研究科 消化器内科学 准教授 藤原靖弘

司会：名古屋大学大学院医学系研究科 消化器内科学 教授 後藤秀実

共催：エーザイ株式会社

4F 第1会場（大会議室A・B）

12：00～12：50

# ランチョンセミナー 1

## 見逃せない、GERD に伴う睡眠障害

大阪市立大学大学院医学研究科 消化器内科学  
藤原靖弘

GERD と睡眠障害について、疫学、病態、治療について最近の研究成績を中心に解説させていただく。GERD と睡眠障害は相互関連にある。すなわち、夜間の酸逆流は胸やけ症状を惹起させ、中途覚醒により睡眠障害を引き起こす。最近、新しい評価方法を用いた検討により、この他にも入眠困難、早朝覚醒、熟眠障害との関連も明らかになりつつある。さらに睡眠時間を短縮させると、GERD 患者では食道知覚過敏が起こり、胸やけ症状が増悪を来すことが判明した。日本では GERD 患者の約半数は睡眠障害を合併しており、睡眠障害を合併している患者では合併していない患者に比較して、GERD 症状はより強く、生活の質も低下していることが報告されている。したがって、このような患者では従来の標準的な治療とは異なり、夜間の胃酸分泌を十分に抑制する治療戦略が求められる。その他、生活習慣改善などの治療オプションなどもご提示したいと思う。

## 〈学歴および職歴〉

生年月日 昭和38年7月24日生  
大阪市立大学消化器内科学 准教授

### 学歴

昭和63年3月 大阪市立大学医学部卒業

### 職歴

昭和63年6月～平成2年3月 大阪市立大学医学部附属病院研修医  
平成2年4月～平成3年3月 大阪市立大学医学部附属病院研究医  
平成4年4月～平成5年5月 米国カリフォルニア大学アーヴァイン校留学  
平成7年3月 大阪市立大学大学院医学研究科内科系専攻内科学3課程修了  
平成7年4月 大阪市立大学医学部第3内科助手  
平成14年10月 大阪市立大学大学院消化器器官制御内科学講師  
平成19年7月 大阪市立大学大学院消化器器官制御内科学准教授  
平成20年4月～ 大阪市立大学大学院消化器内科学准教授

### 所属学会

日本内科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本消化管学会、日本癌学会、  
日本臨床腫瘍学会、日本食道学会、日本潰瘍学会、米国消化器病学会

### 認定医・専門医

日本内科学会総合内科専門医  
日本消化器病学会指導医・専門医  
日本消化器内視鏡学会指導医・専門医

### 評議員

日本消化器病学会評議員  
日本消化器内視鏡学会評議員  
日本消化管学会評議員

# ランチオンセミナー 2

『炎症性腸疾患の内科的治療における新たな展開』

講師：浜松南病院 消化器病・IBD センター長 花井洋行  
司会：名古屋市立大学大学院医学研究科 消化器代謝内科学教授 城 卓志

共催：杏林製薬株式会社

4F 第2会場（大会議室C）

12：00～12：50

## ランチョンセミナー 2 炎症性腸疾患の内科的治療における新たな展開

浜松南病院 消化器病・IBD センター長  
花井洋行

### はじめに

炎症性腸疾患の治療目標は、患者にとって安全でかつ QOL を損なわないよう、早期に寛解導入し、長期間の寛解維持を目指すことである。それには粘膜治癒を目標とする。入院回数を減らし、手術率を低下させるといった IBD の自然史を変える可能性があるからである。

### クローン病の治療概念を劇的に変化させた抗 TNF- $\alpha$ 抗体の出現：

5-ASA、栄養療法、ステロイドと過去20年間ほとんど変化がなかったクローン病 (CD) に対する内科的治療が、この10年間で大きな変化があった。それは生物学的製剤「抗 TNF- $\alpha$  抗体」の出現である (2002 レミケード、2010 ヒューミラが保険適応)。これらの生物学的製剤はその臨床効果に劇的な効果をもたらすと同時に「粘膜治癒」、つまり、潰瘍を治す治療が CD の再燃を防ぐ上で重要だということを教えてくれた。術後の患者に対しても漫然と診療を行うのではなく内視鏡的再燃の有無を定期的にチェックし、エビデンスに基づいた治療の選択をすることが求められる。

### 潰瘍性大腸炎 (UC) における適切な治療の選択：

UC の基本的な治療としては 5-ASA 製剤の全身投与と局所投与があげられるが、寛解導入療法は症状の度合いにより治療の選択肢が異なる。基本薬である 5-ASA 製剤は軽症・中等症・重症に用い、中等症以上には注腸療法の additive な効果が証明されている。難治性の病態には薬剤治療歴とその反応歴が重要な情報である。その際は「血球成分除去療法の集中治療 (寛解導入療法で保険適応)」「タクロリムス (3ヶ月の寛解導入療法が保険適応)」「インフリキシマブ (寛解導入と維持療法で保険適応)」などの選択肢があるが維持療法を考慮した選択が求められる。

維持療法としての免疫調節薬

AZA (イムラン) や 6-MP (ロイケリン) などの免疫調節薬は寛解維持療法において有用であり、安全かつ適切に使用できるように習熟する必要がある。

### おわりに

新薬の登場で UC、CD において粘膜治癒達成が臨床的再燃率を下げ、手術率をも下げるといった報告が相次いでいる。クローン病では維持療法としての抗 TNF- $\alpha$  抗体を中止することが可能な患者が 20-50% 存在することが報告されているが、事前にその患者を知る術を我々はまだ持っていない。



## 〈学歴および職歴〉

浜松南病院 消化器病・IBD センター長

### 学歴

1984 浜松医科大学 大学院 修了

### 職歴

1984-1987 米国 国立衛生研究所 (NIH) 研究員

1987-1990 岡崎国立生理学研究所 助手

1991-1997 浜松医科大学 第一内科 講師

1997-2005 浜松医科大学 光学医療診療部 部長 助教授

2006.4- 現職

### 学会活動

日本消化器病学会： 評議員、指導医、学会誌査読委員

日本消化器内視鏡学会： 評議員、指導医、学会誌査読委員

日本消化管学会： 評議員、

日本消化器がん検診学会： 評議員、指導医

### 海外学会活動

AGA (American Gastroenterological Association) AGAF

ACG (American College of Gastroenterologist) FACG

BSG (British Society of gastroenterology ) member

# シンポジウム 2

## 『胆膵疾患関連手技の Up to Date』

司会：名古屋大学大学院医学系研究科 消化器内科学 講師 伊藤彰浩  
朝日大学歯学部附属村上記念病院 消化器内科 准教授 大洞昭博

4F 第1会場（大会議室 A・B）

9：00～11：30

お断わり：原則的に講演者が入力したデータをそのまま掲載しておりますので、一部施設名・演者名・用語等の表記不統一がございます。あらかじめご了承ください。

## ■第1会場

シンポジウム2 9:00~11:30

司会：名古屋大学大学院医学系研究科 消化器内科学 講師 伊藤彰浩  
朝日大学歯学部附属村上記念病院 消化器内科 准教授 大洞昭博

- S2-01 EUS-elastography を用いた胆嚢癌の肝十二指腸間膜浸潤の診断  
名古屋大学大学院医学系研究科消化器内科学<sup>1)</sup>、名古屋大学医学部附属病院光学医療診療部<sup>2)</sup>  
○平松 武<sup>1)</sup>、廣岡芳樹<sup>2)</sup>、後藤秀実<sup>1) 2)</sup>
- S2-02 当院における胆管 deep cannulation 困難例に対する現状と対策  
名古屋第二赤十字病院 消化器内科  
○坂 哲臣、林 克巳、折戸 悦朗
- S2-03 バスケット陥頓に対する EPLBD  
岐阜大学附属病院 第1内科  
○馬淵正敏、安田一朗、森脇久隆
- S2-04 総胆管結石治療における IDUS の有用性  
朝日大学 村上記念病院  
○伴 尚美、大洞昭博、小島孝雄、加藤隆弘、森本泰隆、宮脇喜一郎、福田信宏
- S2-05 胆管狭窄に対する経乳頭的胆管生検診断能および偶発症の検討  
大垣市民病院 消化器内科  
○山本健太 金森明 熊田卓
- S2-06 当院での ENGBD 症例についての検討  
西美濃厚生病院内科  
○畠山啓朗、岩下雅秀、西脇伸二
- S2-07 当院における内視鏡的経鼻胆嚢ドレナージの治療成績  
岐阜市民病院消化器内科  
○中島賢憲、向井強、富田栄一
- S2-08 悪性胆道狭窄・十二指腸狭窄合併症例に対する double metallic stenting の緩和治療としての有用性と問題点  
岐阜県立多治見病院・消化器内科  
○西江裕忠、奥村文浩、福定繁紀、加地謙太、井上匡央、安部快紀、夏目まこと、西 祐二、吉村至広、水島隆史、佐野 仁

- S2-09 切除不能悪性中下部胆道狭窄に対する covered self-expandable metallic stent 留置  
における膵炎、胆嚢炎の予測因子  
名古屋市立大学大学院 消化器・代謝内科学  
○清水周哉、内藤 格、中沢貴宏
- S2-10 pancreatic fluid collection に対する EUS 下ドレナージの治療成績  
岐阜県総合医療センター消化器内科  
○安藤暢洋、岩田圭介、杉原潤一
- S2-11 Interventional EUS の現状  
公立学校共済組合 東海中央病院 消化器内視鏡センター  
○森島大雅、大塚裕之、石川 英樹
- S2-12 膵癌術前放射線化学療法（NCRT）における内視鏡ドレナージ術の検討  
三重大学消化器肝臓内科  
○井上宏之、山田玲子、竹井謙之
- S2-13 膵頭十二指腸切除後の膵消化管吻合部狭窄に対する内視鏡治療  
静岡県立総合病院  
○菊山正隆、上田 樹、上田千沙子

# シンポジウム 1

## 『ESD の手技と工夫』

司会：静岡県立静岡がんセンター 内視鏡科 部長 小野裕之  
岐阜大学医学部 消化器病態学 准教授 荒木寛司

4F 第1会場（大会議室 A・B）

14：30～17：00

お断わり：原則的に講演者が入力したデータをそのまま掲載しておりますので、一部施設名・演者名・用語等の表記不統一がございます。あらかじめご了承ください。

## ■第1会場

シンポジウム 1 14:30~17:00

司会：静岡県立静岡がんセンター 内視鏡科 部長 小野裕之  
岐阜大学医学部 消化器病態学 准教授 荒木寛司

- S1-01 当院でのSBナイフを用いた食道表在癌のESDについての検討  
名古屋大学大学院医学系研究科  
○山本富美子、宮原良二、後藤秀実
- S1-02 IT-knife nanoを用いた食道ESDの短期治療成績  
静岡県立静岡がんセンター内視鏡科  
○萩原朋子、田中雅樹、小野裕之
- S1-03 当院での胃ESDにおけるlesion lifting法の検討  
藤枝市立総合病院 消化器科  
○丸山保彦、景岡正信、大島昭彦
- S1-04 当科における内視鏡下粘膜下層剥離術（ESD）症例とSBナイフJrの有用性に関する検討  
岐阜市民病院 消化器内科  
○小木曾 富生、杉山 昭彦、加藤 則廣
- S1-05 当院における食道胃接合部噴門部胃癌に対するESDの現状  
朝日大学村上記念病院消化器内科  
○福田信宏、森本泰隆、加藤隆弘
- S1-06 当院における十二指腸ESDの手技と工夫  
岐阜大学 医学部 消化器病態学  
○井深貴士、荒木寛司、森脇久隆
- S1-07 大腸ESD導入の成否は準備で決まる  
朝日大学歯学部附属村上記念病院消化器内科  
○森本泰隆、福田信宏、加藤隆弘
- S1-08 大腸ESDにおけるFlushKnifeとFlushKnife BTの比較検討  
名古屋第二赤十字病院 消化器内科  
○野村智史、山田智則、折戸悦朗

- S1-09 大腸 ESD における送水機能付きバイポーラナイフの有用性の検討  
愛知県がんセンター中央病院 消化器内科部・内視鏡部  
○大林友彦、田近正洋、丹羽康正
- S1-10 先進医療で施行した大腸 ESD と粘膜下層の線維化の検討  
岐阜大学医学部附属病院光学医療診療部  
○荒木寛司、小野木章人、森脇久隆
- S1-11 大腸 ESD における高度先進医療導入期から保険収載後の現状について  
名古屋市立大学大学院医学研究科 消化器・代謝内科学  
○西脇 裕高、海老 正秀、城 卓志

# 一 般 演 題

お断わり：原則的に講演者が入力したデータをそのまま掲載しておりますので、一部施設名・演者名・用語等の表記不統一がございます。あらかじめご了承ください。



## ■第2会場

### 若手研究者優秀演題奨励賞選定セッション

---

上部消化管① 9:00~9:36

座長：岐阜市民病院 消化器内科 加藤則廣

---

- Y-01 壊死性筋膜炎に合併し、高度癒痕狭窄をきたした急性壊死性食道炎の一例  
春日井市民病院・消化器科  
○森岡 優、奥田悠介、杉山智哉、立松有美子、尾関貴紀、加藤晃久、池内寛和、望月寿人、平田慶和、高田博樹、祖父江聡
- Y-02 食道静脈瘤破裂治療後に脾梗塞を起こした1例  
木沢記念病院総合診療科<sup>1)</sup>、同消化器科<sup>2)</sup>  
○杉山誠治<sup>1)</sup>、吉田健作<sup>1)</sup>、足達広和<sup>2)</sup>、中川貴之<sup>2)</sup>、安田陽一<sup>2)</sup>、杉山 宏<sup>2)</sup>
- Y-03 粘膜下腫瘍様の形態を呈した食道異所性胃粘膜の1例  
浜松医科大学 第一内科<sup>1)</sup>、光学医療診療部<sup>2)</sup>、分子診断学<sup>3)</sup>、臨床研究管理センター<sup>4)</sup>  
○加藤雅一<sup>1)</sup>、大澤 恵<sup>2)</sup>、金子雅直<sup>1)</sup>、市川仁美<sup>1)</sup>、鈴木 聡<sup>1)</sup>、岩泉守哉<sup>3)</sup>、山田貴教<sup>1)</sup>、杉本光繁<sup>1)</sup>、金岡 繁<sup>3)</sup>、古田隆久<sup>4)</sup>、杉本 健<sup>1)</sup>
- Y-04 EMR後に放射線化学療法を施行した食道小細胞癌の一例  
岐阜市民病院 消化器内科<sup>1)</sup>、同 中検病理<sup>2)</sup>  
○林 泰之<sup>1)</sup>、高木結衣<sup>1)</sup>、入谷壮一<sup>1)</sup>、加藤潤一<sup>1)</sup>、黒部拓也<sup>1)</sup>、渡部直樹<sup>1)</sup>、鈴木祐介<sup>1)</sup>、中島賢憲<sup>1)</sup>、小木曾富生<sup>1)</sup>、川出尚史<sup>1)</sup>、林 秀樹<sup>1)</sup>、向井 強<sup>1)</sup>、杉山昭彦<sup>1)</sup>、西垣洋一<sup>1)</sup>、加藤則廣<sup>1)</sup>、富田栄一<sup>1)</sup>、山田鉄也<sup>2)</sup>

# 若手研究者優秀演題奨励賞選定セッション

上部消化管② 9:36~10:12

座長：愛知医科大学 消化器内科 小笠原尚高

Y-05 表在性に進展した食道悪性黒色腫の一例

愛知県がんセンター中央病院 内視鏡部<sup>1)</sup>、消化器内科部<sup>2)</sup>、消化器外科部<sup>3)</sup>

○吉澤尚彦<sup>1)</sup>、田中 努<sup>1)</sup>、田近正洋<sup>1)</sup>、近藤真也<sup>1)</sup>、山雄健次<sup>2)</sup>、  
水野伸匡<sup>2)</sup>、原 和生<sup>2)</sup>、肱岡 範<sup>2)</sup>、今岡 大<sup>2)</sup>、永塩美邦<sup>2)</sup>、  
長谷川俊之<sup>2)</sup>、大林友彦<sup>2)</sup>、品川秋秀<sup>2)</sup>、坂口将文<sup>2)</sup>、石原健二<sup>2)</sup>、  
関根匡成<sup>2)</sup>、安部哲也<sup>3)</sup>、丹羽康正<sup>1)</sup>

Y-06 魚骨穿通による限局性腹膜炎に対し内視鏡治療が奏効した1例

公立学校共済組合 東海中央病院 消化器内視鏡センター

○大塚裕之、森島大雅、石川英樹

Y-07 多量の消化管出血を来した異所性膵の一例

聖隷浜松病院 消化器内科

○田村 智、細田佳佐、海野修平、瀧浪将貴、小林陽介、木全政晴、  
芳澤 社、舘野 誠、室久 剛、熊岡浩子、清水恵理奈、長澤正通、  
佐藤嘉彦

Y-08 胃内発育型粘膜下腫瘍に対する腹腔鏡・内視鏡合同胃局所切除術（LECS）の安全性と有用性

静岡県立静岡がんセンター 内視鏡科

○吉田将雄、角嶋直美、田中雅樹、小野裕之、澤井寛明、川田 登、萩原朋子、  
今井健一郎、鷹尾俊達、堀田欣一、山口裕一郎、五十嵐公洋、杉本真也、  
新城邦裕、松林宏行

## ■第3会場

### 若手研究者優秀演題奨励賞選定セッション

---

下部消化管① 9:00~9:45

座長：名古屋大学医学部附属病院 消化器内科 大宮直木

---

- Y-09 内視鏡的に切除した十二指腸カルチノイドの1例  
名古屋市立東部医療センター消化器内科  
○川村百合加、伊藤恵介、浅野 剛、北川美香、西牧亜奈、田中義人、  
長谷川千尋、川合 孝
- Y-10 elongated duodenal polyp の形態をとった十二指腸主乳頭原発カルチノイドの1例  
岐阜北厚生病院 消化器内科<sup>1)</sup>、岐阜大学大学院医学系研究科 地域腫瘍学<sup>2)</sup>、  
京都大学 iPS 細胞研究所<sup>3)</sup>  
○奥野 充<sup>1)</sup>、足立政治<sup>1)</sup>、中村憲昭<sup>1)</sup>、山内 治<sup>1)</sup>、齋藤公志郎<sup>1)</sup>、  
井深貴士<sup>2)</sup>、安田一朗<sup>2)</sup>、森脇久隆<sup>2)</sup>、山田泰広<sup>3)</sup>
- Y-11 免疫調節薬が有用であった単純性潰瘍の一例  
岐阜県立多治見病院  
○福定繁紀、水島隆史、井上匡央、加地謙太、安部快紀、夏目まこと、  
西江裕忠、西 祐二、奥村文浩、佐野 仁
- Y-12 ダブルバルーン小腸内視鏡検査にて確定診断しえた悪性リンパ腫の1例  
藤田保健衛生大学病院 消化管内科  
○大森崇史、丸山尚子、河村知彦、中井 遥、城代康貴、市川裕一郎、  
生野浩和、釜谷明美、米村 穰、小村成臣、大久保正明、鎌野俊彰、  
石塚隆充、中川義仁、長坂光夫、柴田知行、平田一郎
- Y-13 大腸アニサキス症の3例  
伊勢赤十字病院  
○三浦広嗣、山本 玲、山村光弘、大山田純、黒田幹人、川口真矢、  
佐藤兵衛、福家博史

## 若手研究者優秀演題奨励賞選定セッション

下部消化管② 9:45~10:21

座長：浜松医科大学 第一内科 杉本 健

Y-14 好酸球性胃腸炎の1例

済生会松阪総合病院 内科

○鈴木康夫、清水敦哉、竹内 誠、三吉彩子、青木雅俊、福家洋之、河俣浩之、橋本 章、脇田喜弘、中島啓吾

Y-15 大スネアによる頻回の便切除で排便し得た糞便イレウスの一例

協立総合病院消化器内科<sup>1)</sup>、外科<sup>2)</sup>

○小西隆文<sup>1)</sup>、高木 篤<sup>1)</sup>、江間幸雄<sup>1)</sup>、森 智子<sup>1)</sup>、安東直人<sup>1)</sup>、名和晋輔<sup>1)</sup>、中澤幸久<sup>2)</sup>

Y-16 便秘・下腹部痛を主訴に来院した虚血性大腸炎の2例

藤田保健衛生大学消化器内科

○中井 遥、河村知彦、城代康貴、大森崇史、城代康貴、市川裕一朗、生野浩和、小村成臣、米村 穰、大久保正明、丸山尚子、鎌野俊彰、石塚隆充、中川義仁、長坂光夫、柴田知行、平田一郎

Y-17 潰瘍性大腸炎の経過中に SASP から5ASA 製剤への変更により間質性肺炎をきたした1例

岐阜市民病院 消化器内科<sup>1)</sup>、同 呼吸器内科<sup>2)</sup>、同 中検病理<sup>3)</sup>

○高木結衣<sup>1)</sup>、豊島由佳<sup>1)</sup>、高木結衣<sup>1)</sup>、入谷壮一<sup>1)</sup>、加藤潤一<sup>1)</sup>、黒部拓也<sup>1)</sup>、渡部直樹<sup>1)</sup>、鈴木祐介<sup>1)</sup>、中島賢憲<sup>1)</sup>、小木曾富生<sup>1)</sup>、川出尚史<sup>1)</sup>、林 秀樹<sup>1)</sup>、向井 強<sup>1)</sup>、杉山昭彦<sup>1)</sup>、西垣洋一<sup>1)</sup>、加藤則廣<sup>1)</sup>、富田栄一<sup>1)</sup>、長谷川貴昭<sup>2)</sup>、山田鉄也<sup>3)</sup>

## ■第4会場

### 若手研究者優秀演題奨励賞選定セッション

---

胆・膵 9:00~9:36

座長：岐阜大学 第一内科 安田一朗

---

- Y-18 急性胆嚢炎に対し経乳頭的胆嚢ドレナージを施行した2例  
豊橋市民病院 消化器内科  
○山本和弘、松原浩、浦野文博、内藤岳人、藤田基和、山田雅弘、山本英子、  
田中敬浩、田中卓
- Y-19 ERCP 関連処置時におけるCO<sub>2</sub>送気の検討  
名古屋第二赤十字病院 消化器内科  
○柴田俊輔、坂 哲臣、大脇俊宏、野尻 優、金本高明、吉峰 崇、青木美帆、  
岩崎弘靖、野村智史、日下部篤宣、蟹江 浩、山田智則、林 克巳、  
折戸悦朗
- Y-20 閉塞性黄疸を合併した膵仮性嚢胞に対して経乳頭的ドレナージが奏功した一例  
名古屋第一赤十字病院 消化器内科  
○服部 峻、春田純一、山口丈夫、土居崎正雄、石川卓哉、山 剛基、  
亀井圭一郎、澤田つな騎、水谷泰之、村上義郎、八鹿 潤、山田健太
- Y-21 膵管ステント留置が嚢胞感染を惹起したと考えられる膵仮性嚢胞の1例  
藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院 消化器内科  
○細川千佳生

## ■第2会場

大腸① 10:12~10:48

座長：朝日大学歯学部附属病院 消化器内科 森本泰隆

- 1 直腸癌との鑑別を要したアメーバ腸炎の1例  
協立総合病院 外科<sup>1)</sup>、消化器内科<sup>2)</sup>  
○中澤幸久<sup>1)</sup>、高木篤、森智子、名和晋輔、安藤直人<sup>2)</sup>
- 2 Henoch-Schonlein 紫斑病による下部消化管出血を来し大腸内視鏡所見を観察しえた成人女性の1例  
JA 岐阜厚生連東濃厚生病院内科  
○菊池正和、長屋寿彦、野村翔子、吉田正樹、藤本正夫、山瀬裕彦
- 3 ひび割れ所見を呈した collagenous colitis の一例  
JA 岐阜厚生連中濃厚生病院 消化器科<sup>1)</sup>、同病理部<sup>2)</sup>  
○山崎健路<sup>1)</sup>、小木曾英介、華井頼子、尾辻健太郎、戸田勝久、勝村直樹、森 良雄<sup>2)</sup>
- 4 リンパ濾胞過形成を合併した潰瘍性大腸炎の一例  
浜松南病院 消化器病・IBD センター  
○飯田貴之、新井修、池谷賢太郎、渡辺文利、花井洋行

- 13 多発性 Colonic muco-submucosal elongated polyp (CMSEP) の1例  
1) 朝日大学村上記念病院消化器内科、2) 名古屋セントラル病院消化器内科  
○大島靖広<sup>1)</sup>、中村博式<sup>2)</sup>、加藤隆弘<sup>1)</sup>、小島孝雄<sup>1)</sup>、宮脇喜一郎<sup>1)</sup>、森本泰隆<sup>1)</sup>、  
伴 尚美<sup>1)</sup>、福田信宏<sup>1)</sup>、大洞昭博<sup>1)</sup>
- 14 ヘリコバクターピロリ除菌療法が著効し横行結腸に限局した cap polyposis の一例  
名古屋市立西部医療センター 消化器内科  
○足立和規、土田研司、稲垣佑祐、山川慶洋、平野敦之、河合宏紀、木村吉秀、  
妹尾恭司、勝見康平
- 15 回腸肛門吻合の吻合部狭窄に対して内視鏡的切開術とステロイドの局注が奏功した潰瘍  
性大腸炎大腸全摘後の1例  
協立総合病院消化器内科<sup>1)</sup>、外科<sup>2)</sup>  
○森 智子<sup>1)</sup>、高木 篤<sup>1)</sup>、名和晋輔<sup>1)</sup>、小西隆文<sup>1)</sup>、江間幸雄<sup>1)</sup>、安東直人<sup>1)</sup>、  
中澤幸久<sup>2)</sup>
- 16 深達度診断に苦慮した LST-NG の一例  
藤田保健衛生大学消化管内科<sup>1)</sup>、医療法人渡辺医院<sup>2)</sup>  
○丸山尚子<sup>1)</sup>、大森崇史<sup>1)</sup>、平田一郎<sup>1)</sup>、河村知彦<sup>1)</sup>、中井 遥<sup>1)</sup>、城代康貴<sup>1)</sup>、  
生野浩和<sup>1)</sup>、市川裕一郎<sup>1)</sup>、釜谷明美<sup>1)</sup>、小村成臣<sup>1)</sup>、米村 穰<sup>1)</sup>、大久保正明<sup>1)</sup>、  
鎌野俊彰<sup>1)</sup>、石塚隆充<sup>1)</sup>、長坂光夫<sup>1)</sup>、中川義仁<sup>1)</sup>、柴田知行<sup>1)</sup>、渡邊 真<sup>1) 2)</sup>

17 一部で mp 浸潤を来たした大腸 LST non guranular の 1 例

協立総合病院消化器内科<sup>1)</sup>、外科<sup>2)</sup>

○高木 篤<sup>1)</sup>、名和晋輔<sup>1)</sup>、森 智子<sup>1)</sup>、小西隆文<sup>1)</sup>、江間幸雄<sup>1)</sup>、安東直人<sup>1)</sup>、  
中澤幸久<sup>2)</sup>

18 ESD にて切除し得た EMR 後遺残再発直腸癌の 1 例

三重大学医学部附属病院 光学医療診療部<sup>1)</sup>、消化器肝臓内科<sup>2)</sup>

○濱田康彦<sup>1)</sup>、堀木紀之<sup>1)</sup>、田野俊介<sup>1)</sup>、葛原正樹<sup>1)</sup>、稲垣悠二<sup>2)</sup>、野尻圭一郎<sup>2)</sup>、  
二宮克仁<sup>2)</sup>、高山玲子<sup>2)</sup>、井上宏之<sup>2)</sup>、竹井謙之<sup>2)</sup>

19 特異な形態を呈した憩室内進展早期大腸癌の 1 例

静岡県立静岡がんセンター

○新城邦裕、鷹尾俊達、堀田欣一、山口裕一郎、今井健一郎、角嶋直美、田中雅樹、  
吉田将雄、五十嵐公洋、杉本真也、川田登、萩原朋子、澤井寛明、鷹尾まど佳、  
松林宏行、小野裕之

20 Bridge to surgery としての大腸ステント使用経験

名古屋第二赤十字病院 消化器内科<sup>1)</sup>、名古屋第二赤十字病院 一般消化器外科<sup>2)</sup>

○吉峰 崇<sup>1)</sup>、山田智則<sup>1)</sup>、野尻 優<sup>1)</sup>、大脇俊宏<sup>1)</sup>、青木美帆<sup>1)</sup>、岩崎弘靖<sup>1)</sup>、  
野村智史<sup>1)</sup>、金本高明<sup>1)</sup>、日下部篤宣<sup>1)</sup>、蟹江 浩<sup>1)</sup>、坂 哲臣<sup>1)</sup>、林 克巳<sup>1)</sup>、  
折戸悦朗<sup>1)</sup>、長谷川洋<sup>2)</sup>



## ■第3会場

小腸 10:21~10:57

座長：名古屋市立大学 消化器・代謝内科学 片岡洋望

- 5 典型的な小腸病変を呈した Schönlein-Henoch 紫斑病の1例  
国家公務員共済組合連合会東海病院 内科<sup>1)</sup>、松坂クリニック<sup>2)</sup>  
○濱宇津吉隆、丸田真也、北村雅一、三宅忍幸、戸田崇之、加藤 亨<sup>1)</sup>、  
鈴木 洋介<sup>2)</sup>
  
- 6 全消化管に病変を認めた好酸球性胃腸炎の1例  
岐阜赤十字病院 内視鏡科<sup>1)</sup>、消化器内科<sup>2)</sup>、放射線科<sup>3)</sup>  
○高橋裕司<sup>1)</sup>、杉江岳彦<sup>2)</sup>、宮崎恒起<sup>2)</sup>、松下知路<sup>2)</sup>、伊藤陽一郎<sup>2)</sup>、名倉一夫<sup>2)</sup>、  
後藤裕夫<sup>3)</sup>
  
- 7 ダブルバルーン小腸内視鏡（DBE）にて診断しえた小腸海綿状血管腫の一例  
名古屋大学大学院医学系研究科消化器内科学<sup>1)</sup>、名古屋大学医学部附属病院光学医療  
診療部<sup>2)</sup>  
○山田弘志<sup>1)</sup> 大宮直木、中村正直、水谷太郎、山村健史、石原 誠、名倉明日香、  
船坂好平<sup>2)</sup>、大野栄三郎、宮原良二、川嶋啓揮、伊藤彰浩、廣岡芳樹<sup>2)</sup>、  
渡辺 修、安藤貴文、後藤秀実<sup>1) 2)</sup>
  
- 8 術前診断に難渋した小腸神経内分泌腫瘍の一例  
三重大学医学部附属病院・消化器肝臓内科<sup>1)</sup>、三重大学医学部附属病院・光学医療診  
療部<sup>2)</sup>  
○二宮克仁<sup>1)</sup>、葛原正樹<sup>2)</sup>、田野俊介<sup>2)</sup>、濱田康彦<sup>1)</sup>、堀木紀行<sup>2)</sup>、竹井謙之<sup>1)</sup>

21 IDUSにて胆管との交通を確認し得た胆管内乳頭腫瘍の一例

岐阜赤十字病院消化器内科<sup>1)</sup>、同放射線科<sup>2)</sup>

○松下知路<sup>1)</sup>、杉江岳彦<sup>1)</sup>、宮崎恒起<sup>1)</sup>、伊藤陽一郎<sup>1)</sup>、名倉一夫<sup>1)</sup>、後藤裕夫<sup>2)</sup>

22 8年間で増大した膵リンパ上皮嚢胞の1例

静岡県立静岡がんセンター 内視鏡科

○杉本真也、松林宏行、角嶋直美、田中雅樹、鷹尾俊達、堀田欣一、山口裕一郎、  
澤井寛明、今井健一郎、川田 登、萩原朋子、五十嵐公洋、吉田将雄、新城邦裕、  
小野裕之

23 膵炎、膵仮性嚢胞破裂にて発見された TS1膵癌の1例

伊勢赤十字病院 消化器内科

○山村光弘、三浦広嗣、高見麻祐子、山本 玲、大山田純、川口真矢、佐藤兵衛、  
福家博史

---

胆② 14：57～15：24

座長：藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院 消化器内科 三好広尚

---

- 24 内視鏡的乳頭大径バルーン拡張術にて一期的に採石が可能であった巨大胆管結石の一例  
協立総合病院 内科<sup>1)</sup>、協立総合病院 外科<sup>2)</sup>  
○安東直人<sup>1)</sup>、江間幸雄<sup>1)</sup>、高木 篤<sup>1)</sup>、中澤幸久<sup>2)</sup>、森 智子<sup>1)</sup>、名和晋輔<sup>1)</sup>、  
小西隆文<sup>1)</sup>
- 25 当院における高齢者の積み上げ結石に対する内視鏡的乳頭ラージバルーン拡張術  
(EPLBD) の2例  
蒲郡市民病院 消化器内科<sup>1)</sup>、名古屋市立大学消化器・代謝内科学<sup>2)</sup>  
○佐宗 俊<sup>1)</sup>、安藤 朝章<sup>1)</sup>、山下宏章<sup>2)</sup>、宮部勝之<sup>2)</sup>、内藤 格<sup>2)</sup>、林 香月<sup>2)</sup>、  
中沢貴宏<sup>2)</sup>
- 26 当院における総胆管結石に対する内視鏡的乳頭ラージバルーン拡張術 (EPLBD) を施  
行した症例の検討  
国家公務員共済組合連合会 名城病院  
○青木孝太、大岩哲哉、杉浦 潤、大竹麻由美、山下俊樹、長野健一、木本英三

27 EUS-FNA で縦隔膿瘍をきたした肺小細胞癌の1例

愛知県がんセンター中央病院 消化器内科<sup>1)</sup>、同 内視鏡部<sup>2)</sup>、同 消化器外科<sup>3)</sup>、  
同 遺伝子病理診断部<sup>4)</sup>

○坂口将文<sup>1)</sup>、脇岡 範<sup>1)</sup>、水野伸匡<sup>1)</sup>、原 和生<sup>1)</sup>、今岡 大<sup>1)</sup>、田近正洋<sup>2)</sup>、  
近藤真也<sup>2)</sup>、田中 努<sup>2)</sup>、永塩美邦<sup>1)</sup>、長谷川俊之<sup>1)</sup>、大林友彦<sup>1)</sup>、品川秋秀<sup>1)</sup>、  
関根匡成<sup>1)</sup>、吉澤尚彦<sup>1)</sup>、石原健二<sup>1)</sup>、清水泰博<sup>3)</sup>、谷田部恭<sup>4)</sup>、丹羽康正<sup>2)</sup>、  
山雄健次<sup>1)</sup>

28 EUS-FNA によって確定診断された原因不明腹水の一例

岐阜大学医学部附属病院 第1内科

○馬淵正敏、安田一郎、岩下拓司、土井晋平、上村真也、中西孝之、北川順一、  
後藤尚絵、鶴見寿、森脇久隆

29 EUS-FNA で診断した十二指腸 GIST の1例

三重大学医学部附属病院 消化器肝臓内科<sup>1)</sup>、光学医療診療部<sup>2)</sup>

○稲垣悠二<sup>1)</sup>、井上宏之<sup>1)</sup>、爲田雅彦<sup>1)</sup>、野尻圭一郎<sup>1)</sup>、二宮克仁<sup>1)</sup>、田野俊介<sup>2)</sup>、  
山田玲子<sup>1)</sup>、濱田康彦<sup>2)</sup>、葛原正樹<sup>2)</sup>、堀木紀行<sup>2)</sup>、竹井謙之<sup>1)</sup>

30 EUS ガイド下ランデブー法にて経乳頭的胆管ドレナージを施行した膵頭部癌の1例

伊勢赤十字病院 消化器内科

○川口真矢、三浦広嗣、高見麻佑子、山本 玲、山村光弘、大山田純、佐藤兵衛、  
福家博史

## ■第4会場

食道・胃① 10:12~10:48

座長：朝日大学歯学部附属村上記念病院 消化器内科 宮脇喜一郎

9 PTEG 造設後1週間で、挿入部からの出血を認め、死亡した一例

協立総合病院消化器内科<sup>1)</sup>、外科<sup>2)</sup>

○名和晋輔<sup>1)</sup>、高木 篤<sup>1)</sup>、江間幸雄<sup>1)</sup>、森 智子<sup>1)</sup>、安東直人<sup>1)</sup>、小西隆文<sup>1)</sup>、  
中澤幸久<sup>2)</sup>

10 食道内分泌腫瘍の一例

名古屋大学大学院医学系研究科消化器内科学

○前田啓子、安藤貴文、石黒和博、前田 修、渡辺 修、氏原正樹、平山 裕、  
森瀬和宏、松下正伸、船坂好平、中村正直、宮原良二、大宮直木、後藤秀実

11 内視鏡的切除が診断に有用であった胃粘膜下異所性胃腺の2例

愛知医科大学病院消化器内科

○山口純治、近藤好博、岡庭紀子、柳本研一郎、田邊敦資、野田久嗣、田村泰弘、  
伊藤義紹、井澤晋也、増井竜太、土方康孝、徳留健太郎、河村直彦、飯田章人、  
水野真理、小笠原尚高、舟木 康、佐々木誠人、春日井邦夫

12 水疱性類天疱瘡の食道病変を契機に診断し得た胃癌の1例

藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院 内科

○友松雄一郎、芳野純治、乾 和郎、若林貴夫、小林 隆、三好広尚、小坂俊仁、  
山本智支、松浦弘尚、成田賢生、鳥井淑敬、森 智子、細川千佳生、黒川雄太、  
安江祐二

- 31 胃静脈瘤出血に対してクリップ止血が有用であった3例  
朝日大学村上記念病院 消化器内科  
○大洞昭博、小島孝雄、加藤隆弘、宮脇喜一郎、森本泰隆、大島靖広、福田信宏、  
伴 尚美
- 32 背景胃粘膜から考察する胃アニサキスの発症リスク  
朝日大学歯学部附属 村上記念病院 消化器内科  
○宮脇喜一郎、加藤隆弘、森本泰隆、大島靖広、伴 尚美、福田信宏、大洞昭博、  
小島孝雄
- 33 ESDで診断に至った胃壁原発 calcifying fibrous tumor の一例  
愛知医科大学病院 消化器内科  
○田邊敦資、水野真理、井上智司、尾関智紀、木村幹俊、近藤 力、鳥井貴司、  
福富里枝子、小松原利典、新村哲也、高田真由子、山口純治、岡庭紀子、  
野田久嗣、柳本研一郎、田村泰弘、近藤好博、伊藤義紹、増井竜太、井澤晋也、  
土方康孝、徳留健太郎、河村直彦、飯田章人、小笠原尚高、舟木 康、  
佐々木誠人、春日井邦夫
- 34 消化管出血にて発症し術前診断が困難であった胃粘液癌の一例  
三重大学 光学医療診療部<sup>1)</sup>、三重大学 消化器肝臓内科<sup>2)</sup>  
○葛原正樹<sup>1)</sup>、田野俊介<sup>1)</sup>、濱田康彦<sup>1)</sup>、堀木紀行<sup>1)</sup>、稲垣悠二<sup>2)</sup>、野尻圭一郎<sup>2)</sup>、  
二宮克仁<sup>2)</sup>、山田玲子<sup>2)</sup>、井上宏之<sup>2)</sup>、竹井謙之<sup>2)</sup>
- 35 胃 MALT (mucosa-associated lymphoid tissue) リンパ腫に対する当院の治療の現状  
静岡県立静岡がんセンター 内視鏡科  
○五十嵐公洋、角嶋直美、吉田将雄、杉本真也、新城邦裕、萩原朋子、川田 登、  
澤井寛明、今井健一郎、鷹尾俊達、鷹尾まど佳、田中雅樹、松林宏行、  
堀田欣一、山口裕一郎、小野裕之

36 内視鏡的開窓術が有効であった腸重責をきたした十二指腸重複腸管症の1例

岐阜大学医学部消化器病態学

○小野木章人、荒木寛司、小澤範高、小原功輝、中西孝之、河内隆宏、永野淳二、久保田全哉、井深貴士、白上洋平、白木 亮、今尾祥子、大澤陽介、清水雅仁、伊藤弘康、森脇久隆

37 当院で経験した大動脈十二指腸瘻の2例

高山赤十字病院 内科

○杉山智彦、松本拓郎、小原功輝、今井奨、牧谷光晴、下地圭一、柴田敏郎、白子順子

38 診断に内視鏡の反転観察が有効であった十二指腸球部粘膜内癌の1症例

名古屋共立病院 消化器化学療法科<sup>1)</sup>、同 外科<sup>2)</sup>

○栗本拓也<sup>1)</sup>、寺下幸夫<sup>2)</sup>、森洋一郎<sup>2)</sup>